

がらがら通信

岐阜県議会第129代副議長として

貴重な経験をさせていただいております!!



県議会議員生活15年を経て、5月の臨時議会において第129代岐阜県議会副議長に選任いただきました。議長を補佐し、円滑な議会運営に努めるとともに、議会に対する各種団体からの要望を受けるなど、経験したこと

ウィズコロナそしてアフターコロナに向けて

オール岐阜でコロナ感染対策

新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いていますが、県内では局地的な感染、世界に目を向ければ新たな変異株「オミクロン株」が現れ、まだまだ油断できません。こうした中、岐阜県は11月29日に新たな新型コロナウイルス対策「感染拡大防止と社会経済活動の両立」を決定しました。

①感染防止対策の継続・強化

ワクチン接種済の方を含めて「基本的な感染防止対策の継続を呼びかけ」「自宅療養者ゼロ」の堅持、「新たな基準指標の設定」「医療提供体制の強化」「ワクチン追加接種の推進」などを緩みなく推進。

②社会経済活動の再開支援

コロナ禍で影響を受けた県内経済・生活を支援。また、イベント開催制限見直し、学校等の感染防止対策、飲食等における「ワクチン・検査パッケージ」を推進。

●県の対策のポイント

現時点では日常生活に大きな制限はありませんが、私達にはマスク着用やこまめな換気などの基本的な対策の継続が求められています。そのほか、「自宅療養者ゼロ」の堅持に向けて、第6波の備えは着々と進められています。国の「新たなレベル分類」に対応した感染拡大の予兆を捉える県独自の新たな基準指標を設定。

懐深い療養者受入れ体制として、今後宿泊療養施設、臨時医療施設をさらに拡充し、第5波ピーク時から45%増を確保。「オール岐阜体制」によるワクチン追加接種(3回目)を12月から開始。



岐阜県COVID-19関連HP

10/12 Blogより

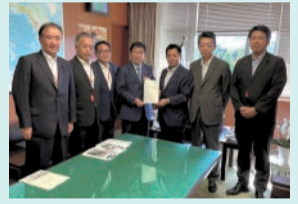
コロナウイルス対策会議



県庁の特別会議室で開催された岐阜県新型コロナウイルス感染症対策協議会・対策本部本部会議に議長の代理として出席しました。知事、副知事はじめ関連する部局長や医療、経済関連の各種団体の代表者が参加して、県内感染状況や新たな波に備える対策などが説明されてご意見が出されました。ワクチン接種が進んで感染者は減少しているものの、封じ込められている状態ではなく、若年層の重症化や外国人県民の感染状況など予断を許さない状況であると説明がありました。知事からは、ワクチン接種希望者へ11月末までに2回接種を完了するため、今月中に希望者に1度目の接種を完了させる体制を確立すると発表されました。岐阜県のコロナウイルス感染対策はオール岐阜の体制で進められている事を実感する会議でした。

7/21 Blogより

国土交通省へ要望 川島大橋早期復旧を目指して

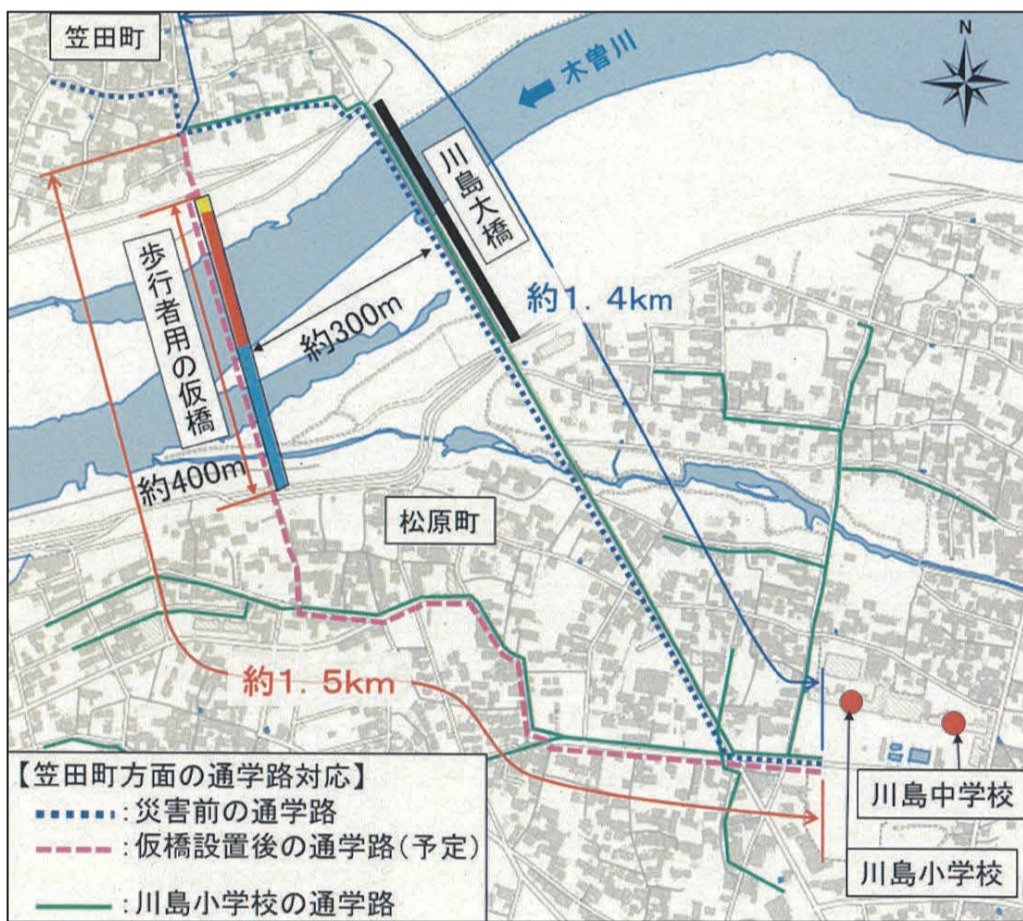


川島大橋の早期復旧に関する要望のために、岐阜県知事と各務原市長、地元選出議員3人も同行して国土交通省に行きました。はじめに岐阜県選出で、先日副大臣に就任された渡辺猛之参議院議員、そして国土交通省技監に面談して、国の権限代行制度による復旧と速やかな災害査定の実施を要望しました。渡辺副大臣には地元住民の切実な要望を伝え、技監には国の技術力と資金面での支援が不可欠であり、国のバックアップによる地元住民の安心感と早期復旧への道筋を強く要望しました。副大臣と技監それぞれから前向きなお考えを聞かせて頂いたので、引き続き各務原市と岐阜県そして国が、情報共有しながら取り組んでいただけるように働きかけていきます。

8/30 Blogより

川島大橋 国土交通相視察

増水によって橋脚の基礎部分が削り取られて傾いたために5月末から通行止めになっている川島大橋に、赤羽国土交通相と渡辺副大臣が視察に来られて視察と記者会見が行われました。岐阜県知事、武藤代議士、各務原市長、地元選出議員はじめ多くの方が同席して、原因や対応など地元の窮状も含めて説明が行われて、知事から国の権限代行による早期復旧を要望しました。国土交通相からは「閣議の承認が必要となるが、担当者と検討しながら進めていきたい。財源については国土強靱化の15兆円を活用」という前向きな記者会見でのコメントがありました。一日に1万台以上の交通量があり、学生の通学路としても重要な役割を果たしていた川島大橋の早期復旧は、地元住民に大きな影響があることから岐阜県としても最重要課題に挙げられています。



国土交通省 川島大橋関連情報

川島大橋の早期復旧を!!

近年豪雨災害が激甚化するなか、5月の増水によって川島大橋の橋脚が傾き長期にわたる通行止めを余儀なくされています。川島大橋は、木曾川を渡る岐阜県道180号松原芋島線の橋であることから、所轄は岐阜県です。しかし、膨大な予算が必要になることや技術的な難易度が極めて高いことなど、早期復旧には課題が山積みしています。そこで、1日も早い復旧に向けて国に災害復旧事業として代行してもらう様に、7月21日に

知事や市長とともに国土交通省に要望に伺い、9月3日付けで国の代行による復旧工事が決定しました。併せて、住民からの要望が強かった歩道の設置についても復旧工事に先立って着手することが発表されました。そして、11月に住民説明会が行われ、12月から被災した橋梁の撤去と歩行者用の仮橋が着工されています。今後、川島大橋の新橋は、必要な検討・調整・手続きを経て設置されることになり、新たな橋梁が確定して工事を行う際には、改めて住民に向けた説明が行われます。川島大橋は生活に欠かせない基盤であり、1日も早く完全に復旧されるように、引き続き県や国へ働きかけていきます!!

西と東で基盤整備は着々と進んでいます!!

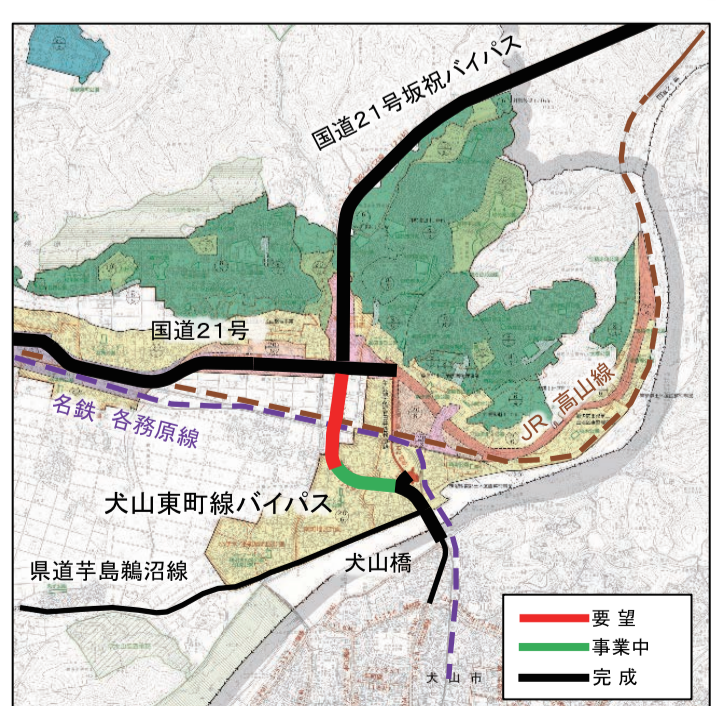
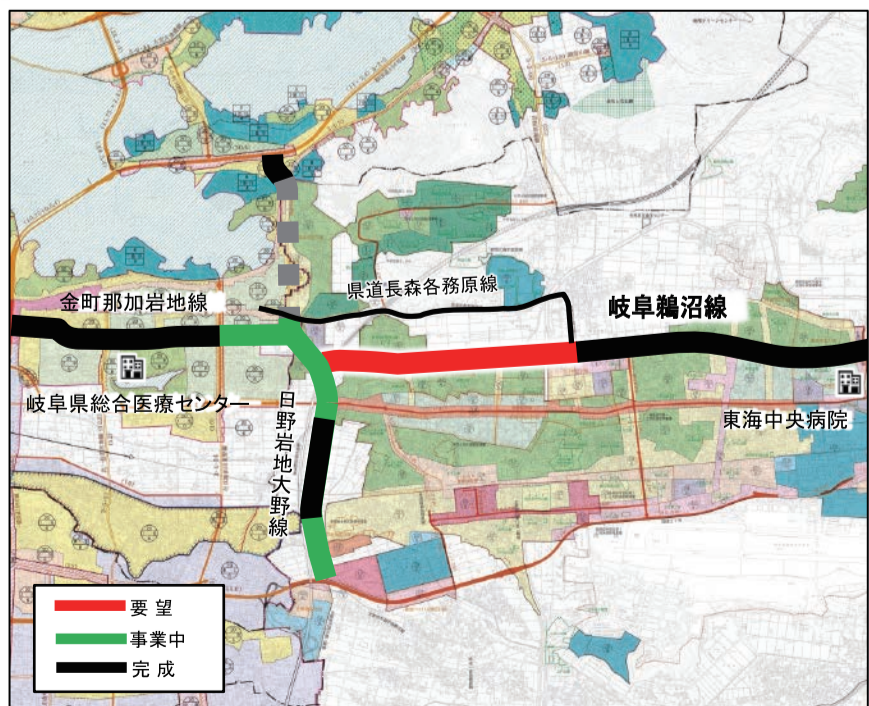
岐阜県と各務原市が連携して便利で安全なまちづくり 各務原市内の道路整備事業は、西部と東部でそれぞれ都市計画道路の整備が、県と市の連携によって着実に進められています。

西部整備

東海中央病院北側から岐阜県総合医療センターを結ぶ「いのちの道路」として、岐阜鶴沼線の早期完成を目指して取り組んできました。岐阜市の金町那加岩地線、各務原市の日野岩地大野線をそれぞれの市が事業化し、岐阜県が新境川をまたぐ東西の岐阜鶴沼線を役割分担して道路整備を進めています。各務原イオン西側の国道21号線以北が整備され、さらに南に向かっても事業が進みつつあります。各務原市西部・岐阜市東部および北部の活性化と岐阜各務原インターへのアクセス向上は、私が県議会議員として取り組む最重要課題の一つです。

東部整備

「犬山東町線バイパス」は、既に完成している坂祝バイパスと愛知県に向かうツインブリッジをつなぐ道路です。私が県議会の一般質問(平成22年12月8日)でも取り上げましたが、「春日井各務原線」のJRと名鉄の踏切による渋滞は大きな問題です。また新しいスーパーができたことにより、生活道路の安全確保が課題です。2本の線路をまたぐ大事業となりますが、岐阜県と各務原市の連携によって着実に事業が推進されています。



一般質問 (H20年3月6日)

この他にも、新愛岐大橋や木曾川河川敷整備事業など、国と岐阜県そして各務原市が連携する基盤整備事業にも全力で働きかけています。15年にわたる議員活動で培った県幹部との人脈を活かし、早期事業化や早期完成に向けた事業推進を岐阜県に対して積極的に働きかけ、救急搬送時間の短縮や渋滞緩和などの利便性の向上を実現させます!!



一般質問 (H22年12月8日)

各務原市の魅力をブラッシュアップ

「かわまちづくり」と「里山づくり」

「自然共生施策と観光施策のポリシームックス」

人口減少社会に対応するため、自治体は少子化対策とともに移住定住策が重要であり、私は様々な取り組みをしてきました。そのひとつが移住定住のキッカケとなるように交流人口や関係人口を増加させるための施策推進です。その施策として各務原市に対して、自然共生と観光のポリシームックスによる「かわまちづくり」と「里山づくり」を提案しています。各務原市に来て、そして知って頂くキッカケに大変効果的であると考えています。また、地域の絆づくりやふるさと教育にも大きな効果が期待できます。

各務原市は南に木曾川、北に緑豊かな里山という自然環境に恵まれています。そして、川と山に平行してその中央を2つの鉄道、JR高山線(4駅)と名鉄各務原線(12駅)が走っています。ふれあいバス路線の有効活用やシェアレンタル自転車、ウォーキングやトレイルラン、ポタリングの大会など企画は多種多様に広がります。こうした恵まれた自然と公共交通機関を有する各務原市にとって、自然共生と観光のポリシームックスは極めて大きな可能性を秘めています。

「かわまちづくり」

各務原市南部と愛知県との県境を木曾川が、東西10キロ以上にわたって流れています。日本ラインとも呼ばれる景観に恵まれた峡谷、そして犬山城を見上げるダム湖、昔の木曾川の往來を支えた渡し跡、浄化センターや総合運動公園、河川環境楽園が整備された広大な河川敷、市内の流域は豊かな資源に恵まれています。近年は、国交省も「かわまちづくり」に対して非常に積極的に、水辺の新しい活用の可能性を切り開く「ミズベリタング」プロジェクトを推進するなど各地で様々な取り組みが生まれています。県が木曾川再発見プロジェクトを打ち出した経緯もあり、昨年11月木曾川上流河川事務所を中心として岐阜・愛知両県の流域7市町によるかわ

まちづくり協議会が立ち上がり、加えて今年7月には、岐阜県が中心となつて木曾川中流域観光振興協議会も設立されました。今こそ近隣市町村と連携しながら、河川整備や観光資源のブラッシュアップ、文化振興やふるさと教育の推進を加速すべき時だと考えます。

「里山づくり」

電気がガスがこれほど普及する前は、里山は貴重な資源を産む大切な場所でした。地域の長老から「松茸が採れない時代になった」と聞くことがあり、「その原因は里山が手入れされず荒れたためだ」と言われます。中山間地域の山林も、木材価格や林業従事者の減少から荒廃が続いています。そうした中、岐阜県では平成24年から豊かな森林を守るために、「清流の国ぎふ森林環境税」を県民税として、一人当たり千円納付して頂いています。国においても、2019年3月に森林環境税及び森林環境譲与税が導入されました。

各務原市の北部は、西から東まで山が続き、木曾川や各務原台地と共に地質学者の関心高い地形になっています。最近では、山歩きや遊歩道として訪れる人も多くなり、地元の方々が保全のために「パークレンジャー」として活動している地域もあります。こうしたボランティア活動による「里山づくり」を支援する制度を確立して、それを活用しながら里山を守る施策の推進に積極的に取り組んでいきます。



●住民のアダプト活動で
きれいになった木曾川河畔

木曾川の基盤整備の遅れ

木曾川中流域の国や県の協議会が、愛知県の市町とともに設立された意義は大きいと考えます。愛知県側の河川敷の基盤整備に比べて、岐阜県側の整備が遅れていると感じるのは私

10/31 Blog より みんなで木曾川 2021AUTUMN ウォーキング

「みんなで木曾川2021AUTUMN」～鶴沼宿から犬山城下へ木曾川河畔でカフェ散歩～に参加して、14,000歩を超える散策をしました。天候が心配されましたが、鶴沼宿から犬山城に向かう頃には日差しも出てきて、長時間ウォーキングには暑いくらいの秋の日和になりました。鶴沼宿から大安寺川、そして木曾川右岸河畔からの犬山城、犬山城からの木曾川や各務原の眺望など、歩いたからこそ味わえる自然や景色



●犬山城から見たライン大橋

6/16 Blog より 各務原浄化センター

昨日の夕方、前渡地区にある各務原浄化センターと木曾川の「渡し」史跡などを地元の方に案内いただきながら、史跡整備や案内看板の要望をいただきました。浄化センターは、流域下水処理場のイメージを一新したモデル施設として、四季折々の花壇や芝生公園など日本一開かれた処理場を目指して素晴らしい整備と維持管理がされています。しかしながら、公園内に数多くある川の歴史に触れる

史跡やその説明看板は、ふるさと教育や観光資源のブラッシュアップの観点から再整備をする必要を感じました。木曾川対岸の江南市「草井の渡し」跡も訪れて、整備状況を視察しましたが、岐阜県側の親水公園化や歩道整備に向けて、かわまちづくり運動の推進や国交省への働きかけの必要を感じました。



8/22 Blog より

観光まちづくり法人 DMO

木曾川中流域の観光振興のために岐阜県と流域5市町で設立された協議会、そして国交省木曾川上流河川事務所を中心に7市町が参画するかわまちづくり協議会など、この1年で木曾川中流域で様々な動きが生まれています。一昨年12月、県議会の一般質問にて、知事に対して「清流の国ぎふ」として木曾川流域の活性化や観光資源の掘り起こしに向けた動きが生まれつつある中、県としての支援について質問と提案をしました。「様々な活動を連携していくためにはどうすべきか？」と考えると、DMO(観光地域づくり法人)を設立して、民間としての意見や手法を行政に提案したり働きかける形態が良いのではと思っています。青年会議所時代の桜観覧船に始まり、現在は木曾川中流域の活性化まで、私の川に対する執着や想いは、学生時代京都で鴨川沿いに下宿して、その風景に慣れ親しんだ事に始まっているのかもしれない。

を満喫できました。第一弾の事業で周知がまだ充分でなかったのですが、木曾川の観光振興の可能性を体感する良い機会でした。



副議長の公務

和牛能力共進会 高山市にて

高山市の飛騨家畜センターで開催された「第12回全国和牛能力共進会(肉牛区)岐阜県出品候補牛譲渡会」に副議長として出席して祝辞を述べました。この譲渡会は、来年鹿児島で開催される全国大会に向けて、岐阜県の代表を目指して子牛を育てた繁殖農家から、肥育候補の農家に「競り」によって譲渡される会で、飛騨牛に関わる多くの方が参加していました。



大きく左右されることもあり、県の畜産研究所や畜産関係者が、農家のみなさんを全力でバックアップしている状況がよくわかりました。飛騨牛のブランド力が一層高まるように、来年開催される鹿児島大会での好成績を期待します。

7/15 Blog より 古田知事と午前も午後も 各務原市から多治見市

午前中は、各務原市役所で古田知事に対して「川島大橋の早期復旧についての要望書」の提出、午後からは多治見市セラミックパークMINOで「リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会」の総会に副議長として出席しました。「川島大橋の要望」については、古田知事から「岐阜県において最重要課題である」と力強い回答をいただき、来週は国交省に国の支援を陳情に行く予定です。午後からのリニア期成同盟会定期総会では、JR東海からの工事進捗状況の説明や国交省中部運輸局の前向きなお話、早期開通と高い経済効果などに大きな期待が膨らみました。午前も午後も知事と出席する1日で、コロナが少し落ち着いて副議長としての公務が忙しくなってきました。



7/16 Blog より

温泉協会通常総会 下呂市にて

下呂市のホテル水明館で開催された「岐阜県温泉協会通常総会」に出席するため、早朝に自宅を出発しました。遠路の公務となるので移動の時間を利用して往路に下呂市小坂地区高天ヶ原谷と復路に郡上市大和町の奥田洞の緊急砂防事業の現場視察をしました。いずれも土砂災害の現場ですが、既設の砂防堰堤が果たした役割や復旧工事状況、再発防止に向けた対策工事について土木事務所担当者から説明を受けました。熱海で大きな土砂災害が起きて甚大な被害が出たばかりですが、山の国である岐阜県の土砂災害に対する備えや地域防災のレベルの高さを教えていただきました。



令和3年度岐阜県温泉協

1963年 各務原市生まれ
子苑幼稚園、那加第二小学校、那加中学校、岐阜高校
学生時代はバドミントン部で、中・高・大学を通じて全国大会出場

1986年 同志社大学経済学部卒業 十六銀行入行
銀行退行後、保険代理業・コンサルタント業で独立開業
消防団や各務原青年会議所で地域活動やまちづくりに参画

2007年 岐阜県議会議員 初当選(現在4期目)

【岐阜県議会における経歴】
2012年 厚生環境委員会 委員長
2013年 教育警察委員会 委員長
2014年 総務委員会 委員長
2015年 土木委員会 委員長
2016年 企画経済委員会 委員長
2017年 監査委員
2019年 農林委員会 委員長
2021年 第129代副議長



公式HP

〒504-0908
岐阜県各務原市那加織田町2-5-1
[TEL] 058-389-6665
[FAX] 058-389-6676
[E-mail] shiawase@yaranaakan.jp



やらなあかんブログ
毎日ブログで
活動報告をしています

まつおかまさ と
松岡正人事務所